

都留文科大学

同窓会報

第28号会報

発行 都留文科大学同窓会事務局
責任者 千野文雄
山梨県都留市田原3-8-1
☎ 0554-43-4341



都留文科大学
同窓会

更なる発展を期して…!

都留文科大学同窓会会長

小林 孝次



09年は大きな変化を遂げた年と言える。米国で初の黒人大統領誕生。日本では、憲政史上初めてと言っていい本格的な政権交代。経済面においては、日米や欧州を軸にした「G8」の国際協調システムから新興国を含めた「G20」という財政・金融政策の国際協調体制に移行しつつある。一方、メキシコから始まった新型インフルエンザもあつと言う間に地球全域に広がり、その対応も国際的な協力体制が求められた。正に、変革とグローバル化が急激にすすんだ1年だったように思える。

都留文科大学にとっては、公立大学法人としての産声をあげた年となった。今日の社会情勢から少子化問題、雇用情勢の悪化、教員養成過程の6年制構想等をはじめ厳しい環境も考えられる。そんな中、09年は08年より2万2千人少ない出生数という統計もある。これは、戦後最低だった05年に次ぐ低い水準のようである。こうした統計から将来を見据える中で、少子化問題は地方都市にある本学にとって真剣に受け止めていかなくてはならない課題だと思う。今日、都留文科大学は学生と先生方の理想的信頼関係の中で、

学問に向き合い知的好奇心を満たしてくれる雰囲気を感じる。自然に囲まれた落ち着いた環境で暮らす4年間、勉強は言うまでもなく、スポーツ・社会体験…等々、今だから出来ること、今しか出来ないこと等に頑張っている様子が新聞紙上から読みとることが出来る。例えば、「第62回全日本合唱コンクール全国大会」の大学の部で金賞第1位を受賞した都留文科大学合唱団。「第5回東アジア大会」の陸上女子200メートルで銅メダルを獲得した学生。「第31回全国国公立大学空手道選手権大会」の女子「形の部」で3連覇をした学生、…等々。現役学生の頑張りに同窓生の一人として喜び、と同時に誇りをも感じさせてもらっている。

雇用情勢が悪化している今日、未来社会を担う人材の養成と頑張っている後輩が全国各地、いや世界各地で活躍できる「場」の創出が重要な施策になるのではないだろうか。その為には、大学との連携を図り、世の木鐸を任じられて各地で活躍している先輩方の知恵が結集され、具体的な行動につながることを心から願うものである。そのことが、同窓会及び大学の発展に大きく寄与するものと確信しているところである。

変革の時代、法人化元年の09年度、未来の社会情勢を見据えた大学経営及び学問の探究…等々、新たな大学像を模索しながら軌道に乗せるべく真剣な取り組み状況を大学経営審議会の席上でお聞きする機会もあった。今後、同窓会としても全国の支部組織を活性化させて、継続的・発展的な支援体制づくりを図っていかなくてはならないと考えているところである。更なる発展を期して…!

「新たな歴史を」

都留文科大学同窓会副会長

亀田 孝夫



新年に我が家に届けられた都留市広報1月号に、都留文科大学合唱団が、11月21日、札幌市で開催された「第62回全日本合唱コンクール全国大会」で金賞第1位を受賞したことが掲載されていた。昨年度発行された同窓会報では、女子陸上競技部が第92回日本陸上競技選手権女子4×400mリレーで3位入賞、銅メダル獲得を伝えている。後輩の輝かしい活躍を知り喜びに浸っている。私が同窓会事務局長を平成11年から16年まで務めた関係で同窓会副会長の就任要請があり、微力ながら務めさせて頂くことにした。同窓会支部は現在34支部あり、全都道府県支部設立を目指している。私が事務局長を務めていた当時、各県の同窓会員の努力で24支部から32支部まで拡大して頂いた。この同窓会員の力と情熱を結集すれば、全都道府県で支部設立が達成できると信じている。事務局長としての最終年の平成16年に、都留文科大学開学50周年記念事業が行われた。同窓会では、壁画作家橋村元弘氏制作の壁画「WA」を贈呈し、新図書館ロビーに設置した。19世紀から20世紀の近代絵本古典コレクションや図書館DVDも寄贈した。金子博学長(当時)の尽力で、ノ

ーベル賞受賞作家大江健三郎氏の開学50周年記念講演会も開催されている。金子学長から、大江健三郎氏が講演を承諾した理由に、都留文科大学が地域に根付き地域と共に大学を発展させてきたことに共感したことを挙げていたとの後日談を伺った。

同窓会報に、同窓生が各界で活躍する記事や学生時代の回顧談が多く載せられている。都留文科大学は昭和28年に教員養成所として設置されたのであるが、同窓生は教育界だけでなく様々な分野で活躍しており、素晴らしい人材が輩出している。私の教員の先輩に、民主党参議院委員長長興石東氏、山梨県教育委員会教育長松土清氏のお二人がいて、興石東氏は第7代同窓会長を務めている。私や先輩方が卒業した当時の大学は、一号館・旧図書館・体育館以外これといった施設がなかった。音楽棟は木造校舎を移築したものだ。学生食堂はプレハブの建物だった。大学前の国道バイパス両側は田畑が続き、建物はほとんどなかった。施設設備が乏しい中、若い情熱と大きな夢を抱いて勉強や部活に打ち込んでいた。今、大学を数十年ぶりに訪れる同窓生は、大学の見事な変容に様に驚く。施設設置の充実した大学、都留文科大学前駅の開設、開発された駅前町の並み中等である。しかし、今日の経済状況は、後輩の学生達が望む仕事に就くには困難な状況下にある。同窓会では、教員採用合格者増加を目指し、在学生懇話会や模擬面接試験体験会を実施している。また、9支部で教員採用対策指導を実施し、教員採用試験合格へ貢献して頂いている。私の勤務校で、後輩が教採試験合格を目指して期間採用で勤めていた。私は、後輩の夢が叶うよう、同窓会役員として全力で取り組んでいきたい。

「小さい大学都市」

都留文科大学学長

今谷 明



全国の同窓会、同窓生の皆様には、ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

私は学長就任以来、この1月で1年と10ヶ月になります。就任1年目は法人化の準備、今年度は法人化1年目で、落下傘学長としては目の回る2年間でした。法人化にともなって新たに西室陽一氏を理事長にお迎えし、私は副理事長兼学長という立場です。

少子化と空前の不況のなかで、大学間の学生囲い込み競争も激化しております。しかし幸いなことに、本学では極端な受験者減少といった非常事態には至っておりません。一昨年夏も昨年夏もオープンキャンパスは好評で、いずれも前年度より見学者は増えました。また直近の“難易度ランキング”（『東洋経済』09年10月24号）等で見ましても、本学の水準は東西の有名大学と互して健闘していることがうかがえます。

この間、各地の同窓会にお招きを頂きまして、宮崎県・東京都・群馬県等に出かけ、とくに高崎では、同窓会創立総会の熱気に接することが出来ました。これらの会でOBの方々とお話して感じていたことですが、かつてはほとんどの卒業生が教職に就く時代が長かったので、今でも大半の学生が教員になると

思っておられる向きが多い。しかし近年の本学の学生は、教員に就くのは2割内外で、残りの8割がたは、公務員・一般企業等です。従いまして、同窓会各位におかれては、以上の点をお含みおき頂き、学生の就職面についての御支援もよろしくお願い致します。

金融危機と世界不況が続いておりまして、今年の4年生諸君の就職活動も大変のようです。しかしその中でも、頑張っている学生はいるようで、札幌市で行われた全日本合唱コンクール全国大会では本学の合唱団が金賞を獲得しましたし、スポーツ部門でも入賞を果たした実績があります。

全国の公立大学は、20年前の平成元年の段階では39校でしたが、現在では77大学とほぼ倍増しています。国立大学が文科省所管の運営費交付金で侷われているのに対し、公立大学は総務省所管の地方交付税（基準財政需要額大学分）が設置者（市）に交付され、さらに設置者から運営交付金として付与されたものと、学生からの授業料等で運営されています。その中で本学は、高崎経済大学や下関市立大学とともに授業料等の自立財源比率が高く、交付税員担率すなわち自治員担率は低く、比較的健全な財源構成であると言えます。しかし、何しろ厳しい環境の下で、問題は山積しております。

人口わずか3万余りの小さな自治体が大学を運営していること自体、ちょっとした奇蹟だったのでありますが、近年北海道に名寄市立大学（看護系）というのが設立されまして、本学も必ずしも“全国唯一”のという特色はなくなったのですが、今後とも、「小さい大学都市」を訓として頑張っ参りたいと存じます。

都留文科大学同窓会役員

役職名	氏名	卒科	役職名	氏名	卒科	役職名	氏名	卒科	役職名	氏名	卒科	
名誉会長	今谷 明		福島支部長	大竹豊紀	40初	広島支部長	小谷桂司	45初	山梨県理事	有泉幸廣	47初	
会長	小林孝次	47英	茨城支部長	宮内健治	52国	鳥取支部長	飛村 淳	43初		立川清則	48初	
副会長	桐井幸雄	33初	群馬支部長	角田達夫	50英	島根支部長	木村晴男	44初		一瀬英治	47国	
	木浦憲一	47初	埼玉支部長	渡邊哲朗	40初	岡山支部長	原田直樹	45国		朝比奈一正	40初	
	千野文雄	49英	千葉支部長	林 俊之	44初	愛媛支部長	谷川忠孝	43初		作地 眞	47国	
	亀田孝夫	52英	東京支部長	松本多加志	44初	徳島支部長	小倉健司	54英		奥脇隆樹	46初	
庶務会計	石井正己	52初	神奈川支部長	板倉忠臣	31初	高知支部長	清岡典代	41国		赤松金次郎	36商	
	田中克己	53初	山梨支部長	倉田由和	38初	長崎支部長	西田正人	41初		日野原晴男	49国	
	小笠原武彦	大学課程修	静岡支部長	清水 猶	42国	熊本支部長	倉岡康夫	39国		顧問	奥秋順作	32初
事務局長	日向哲男	52初	新潟支部長	池原栄一	51初	宮崎支部長	荒巻孝行	36初			志村武男	32商
事務局次長	浜欠亮吉	40国	富山支部長	澤井 隆	49国	鹿児島支部長	溝口通大	40初			後藤 敬	34商
	加藤一雄	54初	石川支部長	西田良治	50国	沖縄支部長	金城宏安	34初			佐藤唯一	33初
監事	淡野香百合	40初	福井支部長	村上則夫	47初	北海道理事	当銀誠博	40初	佐藤英雄		39国	
	相川洋子	53英	愛知支部長	神谷彰彦	55初	兵庫県理事	赤穂榮一	41英	輿石 東		33初	
北海道支部長	横山 勲	41国	三重支部長	山本征也	39初	山梨県理事	若林四郎	32商	山縣永良		40国	
岩手支部長	堀籠智志	54国	奈良支部長	瀧川佳市	33初		田中克己	53初	勝俣武男		42初	
山形支部長	神尾正俊	55国	大阪支部長	泉川芳夫	50初		吉田一郎	46国	永田清一		47国	
宮城支部長	千葉龍正	52初	兵庫支部長	井上弘和	41国		原 喜雄	54初				

臨床教育学の開拓と 教師教育の改革に 参加して

都留文科大学退官教授
初等教育学科教授

田中 孝彦



私は、2003年度に新設された大学院臨床教育実践学専攻で、また2005年度に学部初等教育学科に発足した臨床教育学コースで、研究・教育の仕事に参加してきました。

ここ15年ほどの日本社会では、競争と自己責任が強調され、新たな格差と貧困が生まれ、子どもたちの不安定な姿が目立ち、教育や教師の困難が大きな社会問題となってきました。臨床教育学は、こうした状況の中で開拓が始まった教育学の新しい領域です。それは、子どもたち一人ひとりについての理解を、彼ら自身の声に耳を傾け、福祉・医療・心理臨床の専門家たちとも協力しながら、深めていくことを主な課題とするものです。

都留文科大学では、学部段階での、そして現職教員を含んだ大学院段階での教師教育のカリキュラムに、こうした子ども理解のセンスや力量の形成を支える臨床教育学を位置づける試みが行なわれてきました。臨床教育学コースの卒業生たちはすでに100人近くにのぼり、教育現場などで働き始めています。また、大学院臨床教育実践学専攻への入学者も、社会人・現職教員、他大学・他学科卒業生など多彩に広がっています。

今、世界の教師教育改革においては、子ども理解のセンスを培うことと学習指導の力量を育むことを結びつけるカリキュラムを、大学院修士課程まで含めて構成することが、共通の流れになっています。そうした世界の流れを視野に入れると、この間の都留文科大学の教師教育改革の試みは、小さいけれども大切な意味を持っているように思われます。

同窓生の皆様には、都留の臨床教育学の開拓と教師教育改革の動きを見守ってくださるようお願いいたします。私は、4月から、兵庫の武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科に移りますが、都留の試みに関心を持ち続け、そこから学び続けていくつもりです。

「きらりと光る 宝石のような大学」

都留文科大学退官教授
比較文化学科教授

笠原 十九司



私は東京教育大学史学科（東洋史学専攻）を卒業し、東京大学教育学部附属中学・高等学校の社会科（世界史）の教員を8年間勤めた後、宇都宮大学教育学部社会科（歴史学）の教官を20年間勤め、1999年4月から本学比較文化学科に奉職いたしました。我が人生最後の職場が都留文科大学であったことは、幸運であったと有り難く思っています。

ちょうど私が赴任してきた頃の比較文化学科の学生たちが「ゲド戦記」シリーズの翻訳で知られる清水真砂子さんを講演に招き、講演録への収録にあたってお手伝いなどしたことから、彼女の講演録『幸福に驚く力』（かもがわ出版）の「あとがき」に、「私はこの山中にきらりと光る宝石のような大学にでかけ、翻訳という仕事について語りました」と書かれています。

また、『花の百名山』で知られる随筆家の田中澄江

さんが都留市と大月市との市境にある九鬼山に登った時のことを『沈黙の山 私の歴史山歩』（山と溪谷社）に記しています。その中で、都留の伝統ある歴史にふれ、「山梨県下にあつて、全国からの俊秀を集める都留文科大学の存在は、その誇りを示すものであろう」と書いています。

私は、全国各地で開かれる教職員組合や市民団体の平和に関する集会や学習会の講師に呼ばれることが多かったのですが、講演が終わって、主催関係者の方々と飲みながら懇談した場で、「〇〇校の〇〇先生は都留文大出の先生で頑張っている」という話をよく聞きました。どの県に行ってもそのような話を聞いたように思います。総じて、都留文大出身の先生は指導力がある、教師としての実力があるということでした。全国各県に教員養成のための国立大学の学部や大学がある中で、都留文大卒業生が採用されたのは、本学で学び、修得した教師としての実力が評価されているからだと思いました。

また、「都留文大には良い先生が集まっている」ということもよく言われました。先生方の「やる気」と学生たちの「学ぶ気」、両者が響きあって都留文大を「山中に光る宝石のような大学」という評判を得られるようにしてきたのだとつくづく思います。

「国文学科創設50周年記念講演会」開催のお知らせ

都留文科大学国文学科では、学科創設50周年記念講演会を下記日程で開催いたしますので、同窓会の方々はふるってご参加ください。

なお、国文学科の卒業生には、後日詳細をお知らせいたします。

開催日程 平成22年8月7日(土) [午後を予定] ※講演会終了後、記念パーティーを予定しています。

開催会場 都留文科大学2号館1階101教室

講演講師 久保木哲夫 元学長兼名誉教授／鷺只雄名誉教授

問合せ先 都留文科大学 国文学科事務室 ☎0554-43-4341 (内線530)

活躍する同窓生

率先垂範

株式会社タカラトミー取締役副社長

奥 秋 四 良



私にとって都留文大での4年間は、そのまま応援団で過ごした4年間と言っても過言ではありません。

中学・高校と野球に打ち込んできた私は、これまでとは違った時間の過ごし方を送ろうと、夢や希望を胸に大学の門を叩いたのでした。キャンパスでは、新入生に対してクラブへの勧誘活動が熱心に繰り広げられており、応援団もそのひとつでした。そして、名簿だけのつもりで名前を記入したはずが、結果的に正式な入団になっていたという、思いもかけない展開が私を待ち受けていたのです。

応援団の練習は、6年間野球に打ち込んできた私が音をあげたくなるほどに本当にきつく、厳しいものでした。ご承知の通り、都留はその周囲を秩父や御坂、丹沢といった山々や深い渓谷に囲まれた豊かな自然が魅力です。間近に仰ぎ見る霊峰富士は、季節の移ろいの中でさまざまな姿を楽しませてくれました。しかしながら、1年365日応援団の練習に明け暮れる私たちには、その自然がどれほど厳しいものになって襲いかかってきたかしれません。30人近くいた新入団員は、いつしかわずか7人になっていましたが、私自身が辛い練習から逃げ出すことなくいられたのは、助け合い、支え合って同じ時を過ごした仲間との友情があったからこそだと思っています。夏の暑さに、冬の寒さに、耐えながら応援団の練習に臨んだ友との4年間は、いまだに輝きを失わない大切な思い出です。

応援団はまた、厳しい上下関係で成り立つ集団でもありました。その上下関係とは、単に上が下を押さえ込むというのではなく、1年の始末は2年が、2年・1年の始末は3年が、というもので、そのためにはきちんと下を育て、下を活かすことが上級生に課せられた役割であったといえます。

私はこの応援団での4年間で、「忍耐力」と「がむしゃらにことにあたる力」が身についたと思っています。そしてそれは、卒業後40年近くが経った今でも、会社がピンチになった時が自分の出番であると、

自らを奮い立たせる原動力となっています。

当時は、卒業後9割がたが教職に就く時代でした。私自身、教職を目指す環境に育ち、入学後は教員資格を取るための単位を必死になって取った経緯があります。しかしいざ卒業を目前とした時に漠然とした疑問が頭をもちあげてきたのです。今日までの「学生」という立場から、明日には「先生」と呼ばれる立場の人間に、果たして自分はなれるのか？その答えを見出せないまま、結局私は民間企業への就職を選んだのです。

私が入社したのは当時リカちゃん人形や人生ゲームで有名な玩具メーカーでした。入社後工場での研修期間を経て、配属されたのは本社の営業でした。その後、名古屋・大阪・東京と、営業所を経験することになるのですが、振り返ればこの時期が、生涯で最も仕事に打ち込めた時期であり、自分作りができた時期であった気がします。そしてそれは28歳という若輩でありながら、名古屋営業所長を任されるという結果に結びついていきました。今振り返っても、わずか6年という営業経験しかない私に、営業所長として仕事に打ち込むチャンスを与えてくれた会社には、感謝の言葉しか見つかりません。

その後、23年間勤めた会社を辞した私は、同業の玩具メーカーに入社しました。人の世の縁とは不思議なもので、4年前に両社は合併を発表し、タカラトミーという日本一のおもちゃ会社が誕生いたしました。幸せなことに、私はまた、自らを活かす新たな舞台を与えられることになったのです。

私は世の中で成功する人と失敗する人、その差は「企画力」であると思っています。「企画力」とは自らが感じ、自らが考え、そして自らが行動することであり、変化を捉え、チャンスを逃さない行動力と、前だけでなく、時に周囲や後ろを見る視野の広さを持ち合わせることであると思います。それは学校で学ぶことではないかもしれませんが、人生のさまざまな場面で出会う多くの経験が糧になると信じています。

小学生の時、狭い教室を飛び出し青空教室を企画してくれた若い先生に憧れて、教師への道を選んだ私は、結果的には教職に就くことはありませんでしたが、「遊び」を通じて子どもたちの健やかな成長を担うおもちゃメーカーでの仕事を選択しました。そして日々の生活の中で、都留文大で学んだすべてのことが支えとなっています。今後も都留文大の文化が綿々とつながっていくことを祈念してやみません。

最後にこの場をお借りして、お世話になった教職員の皆さまや諸先輩方、また共に学業や応援団に汗を流した仲間たちに心から感謝申し上げたいと思います。押忍。

活躍する同窓生

“さあこれから 3つの元気を”

民主党幹事長代行
参議院議員会長
興石 東



09年の流行語大賞に象徴される、歴史的政権交代で鳩山内閣が発足し、迎えた新しい年2010年のNHK大河ドラマ「龍馬伝」は怒濤の幕末を駆け抜け、時代を大きく動かした風雲児・坂本龍馬の31年の生涯を描くという。私たちは今、明日が見えない時代にあって、WBCの「侍ジャパン」の活躍や司馬遼太郎の「坂の上の雲」などに勇気や感動を求めようとしているのかも知れません。

日本列島には「不況」の文字が覆い、世界のトヨタが71年ぶりに赤字に転落し、失業率5.7%、求人倍率0.42倍と過去最悪を更新、私たちが都留で学び教職への道を求めたあの頃と同じ「大学は出たけれど」、まさに「就職氷河期」の再来とデフレ危機や景気の二番底の到来が心配されています。

桂川、の流れは今日も富士の雪どけ水を運んでいます。私たちの心のふるさと都留の街が、日本が、子どもたちが一日も早く元気をとり戻してほしいと思います。今こそ日本列島に3つの元気をとり戻し、すべての人が「出番」と「居場所」のある社会をめざし

たいと思います。

みせかけの豊かさから心の貧しさが生まれ、教室の中の子どもたちから「心の居場所」を奪い、若者から「働く出番」まで奪ってしまう現実を前に、子どもが、地方が、そして地球が元気をとり戻すために景気、雇用、環境等の諸課題にも挑戦していかなければなりません。

鳩山政権は、国民の生活が第一を基本に、コンクリートから人への投資、教育は未来への先行投資の理念に立って92兆円の予算編成を行い、子ども手当、高校無償化、農家への戸別所得補償等の政権公約実現をめざしています。

さあこれから 私たち民主党の真価が問われるのは、まさにこれからであります。国民生活のあらゆる分野に格差が生まれ、家庭の所得格差が教育格差を生み、学ぶチャンスを子どもたちから奪ってしまうことは許されません。

おわりに、「人づくりなくして国づくりなし、。

私たちの心のふるさと学園の街「都留」と「菁莪育才」人間の育つ学園大学としての都留文科大学の限らない発展と同窓生の皆様方のご活躍、ご健勝をご祈念申し上げます。



平成21年度 都留文科大学同窓会都道府県別会員数

No	都道府県名	卒業生数	No	都道府県名	卒業生数	No	都道府県名	卒業生数	No	都道府県名	卒業生数
1	北海道	550	13	東京都	1,293	25	滋賀県	97	37	香川県	135
2	青森県	212	14	神奈川県	1,278	26	京都府	233	38	愛媛県	237
3	岩手県	433	15	新潟県	542	27	大阪府	495	39	高知県	64
4	宮城県	556	16	富山県	505	28	兵庫県	795	40	福岡県	234
5	秋田県	204	17	石川県	518	29	奈良県	93	41	佐賀県	76
6	山形県	285	18	福井県	435	30	和歌山県	171	42	長崎県	176
7	福島県	679	19	山梨県	3,140	31	鳥取県	147	43	熊本県	179
8	茨城県	365	20	長野県	859	32	島根県	198	44	大分県	96
9	栃木県	386	21	岐阜県	458	33	岡山県	354	45	宮崎県	130
10	群馬県	290	22	静岡県	1,150	34	広島県	463	46	鹿児島県	289
11	埼玉県	543	23	愛知県	1,117	35	山口県	175	47	沖縄県	154
12	千葉県	562	24	三重県	340	36	徳島県	319	48	不明者	6,097

合計 28,107

■ 支部設立済都道府県

平成21年4月1日現在

大地に根付く後進たち

北海道支部長 横山 勲

平成21年度の桂友会総会は、さる8月8日札幌市内において道内各地から30名近い同窓生が集い、支部総会、講演会その後懇親会が催されました。

これまでの講演会では、支部設立35周年記念総会における金子博前学長をはじめ、道内で活躍をしている本学出身の大学・短大の教授や支援学校の有識者にご講演をいただききました。長い研究に基づいたお話しはもとより、思いもよらないユニークなライフスタイルまで内容豊かな講演が続いています。

5回目となる本年は、帯広から杉森繁樹先生(昭和44年初等教育科卒)をお招きしてご講演をいただきました。先生は長く十勝において児童詩誌「サイロの会」代表として編集に携われ、現在も後進の指導にあたっているまさにこの道のエキスパートです。

講演では、児童詩誌「サイロ」が、帯広における製菓の老舗千秋庵(現六花亭)の企業メセナの一環として50年目を迎え、詩誌も創刊以来591号に至る経緯が豊富な資料とともに話されました。

その間、「北海道文化賞」や「帯広市文化賞」の受賞、さらには「文部科学大臣表彰」などがあり、これまでの実践が高く評価されることを知る機会となりました。何よりもこの「サイロの会」には本学出身の若い先生が後進として力強く育ちつつあることもわかり、講演とともに大きな収穫でした。

その後、懇親会に移り、長く後輩を元気づけている長坂さんをはじめ、世代を超えて谷村を共有した仲間の話は尽きることなく、来年の再会を約して本年度の会を閉じました。

◎平成21年度支部役員

Table with 6 columns: Position, Name, Position, Name, Position, Name. Lists branch officers including 顧問 日下 功, 顧問 熊谷 勲, 支部長 横山 勲, etc.

副学長「高田理孝」先生をお迎えし、活動の絆を強める

岩手県支部長 堀籠 智志

全国の同窓会の皆様方には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、私ども岩手県支部では平成元年に支部を創設して以来、隔年で同窓会を開催しております。第11回岩手県支部同総会は、平成21年11月14日に、都留文科大学から副学長の高田理孝先生をお迎えし、盛岡市の「ホテルロイヤル盛岡」において開催されました。今回は新型インフルエンザ

が猛威を振るう中、初めての盛岡開催となりました。懇親会には、県内はもとより、遠くは、神奈川県からの参加者もあり、懐かしい



顔ぶれが揃って、おおいに盛り上がりました。

高田先生からは、「都留文科大学の現状について(パートII)」という演題で、特別講話をいただきました。前回に引き続きということで、最近の大学を取り巻く厳しい状況や学生の動向等について、大変貴重で有意義なお話をたくさん聞くことができました。

最後に、万歳三唱で2年後の再会を約束して散会となりました。今後とも岩手県支部をよろしく願います。

◎平成21・22年度役員(卒業年度)

Table with 2 columns: Position, Name (Year Graduated). Lists officers and staff with their graduation years, such as 顧問 高橋 一臣 (39卒), 会長 堀籠 智志 (53卒), etc.

宮城の流れ・活動を紹介します

宮城県支部長 鎌田 清

〈流れ〉

昭和52年12月4日 松島「松州荘」第1回26名参加
57.8 松島28名参加 平成11.2 学長先生40名
62.2 仙台37名参加 12.2 河西先生30名
平成元.2 中山先生30名 13.2 箱石先生28名
3.8 17名 14.2 31名
4.2 森江先生29名 15.2 金子学長33名
5.2 近藤先生27名 16.2 35名
6.2 近藤先生34名 17.2 37名
7.2 近藤先生32名 18.2 上杉先生44名
8.2 近藤先生33名 19.2 45名
9.2 河西先生35名 20.2 上杉・柳・寺川先生54名
10.2 31名
21.2 今谷学長・永田会長58名 *22年度は2月実施

〈年間事業〉 2/7 平成20年度総会・懇親会
5/9 教員採用試験学習会1 18名参加
6/20 教員採用試験学習会2 10名参加

7/4 教員採用試験学習会3 9名参加
受験者激励会・管理職試験学習会
8/22 支部会報発行事務局会 12号発行
9/5 教員採用試験二次学習会4 1次合格6名
9/17 支部会報編集会議・発行 200部発送
12/26 平成21年度総会案内状 200部発送
1/23 役員会 総会準備
2/6 21年度支部総会・懇親会 60名予定

◎平成22年度役員名簿

名誉会長 鎌田光彦・小野俊次・鎌田 清
会長 千葉龍正
副会長 白幡守雄・相沢光信・森田宏彦・布施勝久・高橋克己・菅野俊雄(事務局担当)
事務局 繁田由美・坂本忠厚・松浦和浩・一條良介・及川恵子・清水 進・佐藤圭二
会計 横山英美・小野寺直美
参与 及川勝友・鎌田睦子・半澤登美子・横山貞夫・目黒つねみ・松田美智子・齋藤章夫

これが、24回続く、宮城都留大学生の集う、毎年2月の総会と1年間の活動です。

大平栄子教授を迎えての茨城支部同総会総会

茨城県支部長 宮内 健治

全国の同窓生の皆様には、お元気で御活躍のことと存じます。茨城支部同総会では、本年度6月に県南の土浦市の港近くのCANKOH(霞ヶ浦観光)ホテルで同窓会総会を実施しました。大学から学長補佐大平栄子教授(英文学科)をお迎えして開催しました。新型インフルエンザの流行等懸念されましたが、幅広い年代の同窓生の参加がありました。支部長から4月の理事会報告等大学の現状の紹介があり、大平栄子教授からは公立大学法人化された大学の現状等の紹介がありました。

その後大平教授にも参加いただき、交流の場をもちました。先輩の同窓生から大学が草創期の頃に苦労された話(下宿、学生生活)では、現在の状況とは隔世の感があります。社会学科を卒業した若い会員の参加もあり、大学時代の話や、図書館等施設の充実や大学周辺の変化等都留市の変貌も驚くばかりです。最後に全員で「花のかげ」を合唱し、次回の再会を約束しました。

皆様の益々の御活躍と御健康を祈念しています。

◎茨城県支部役員

- 顧問 大川 英世 (昭45 英文)
- 支部長 宮内 健治 (昭52 国文)
- 副支部長 井坂 雄爾 (昭61 初教)
- 理事 武田 真一 (昭57 英文)
- 理事 新井田由美 (昭62 英文)
- 理事 石川 順子 (平元 国文)
- 理事 関野 昌彦 (平6 英文)
- 理事 赤荻佐知子 (平8 国文)



ついに実現！ 群馬県支部設立！

群馬県支部事務局長 島田実恵子

平成21年8月30日、今谷学長様、小林同窓会長様においでいただき、念願の群馬県支部設立総会を開催することができました。毎年会報が届く度に、県支部がないことをとても残念に思っておりましたので、大学同窓会事務局に相談して、支部設立の手順などを教えていただき、5月から準備を始めた次第です。まず1976年以前の卒業生30名に支部設立についてのご意見を伺い、大多数の方の賛同を得たので、何人かの方に発起人をお願いして準備を進めて参りました。300名近い同窓生一人一人にご案内を発送し、半数近くの方からご返事をいただけないという残念な結果もありましたが、当日は43名の方にご出席いただき、本当に嬉しい感無量の設立総会となりました。懇親会では、昭和39年度～平成12年度に卒業した幅広い年齢層の皆さんで、最近の大学の様子をDVDで見たり、懐かしい学生歌「花のかげ」を一緒に歌ったりしました。又若き青春時代を共に学び共に過ごした都留での共通の思い出を語り合うこともできました。発起人代表とし

ましても、この上ない喜びでございます。今後役員一同力を合わせて、県支部の発展にがんばりたいと思います。

◎群馬県支部役員

- 支部長 角田 達夫 (昭49)
- 副支部長 野崎 哲治 (昭41)・野中 博雄 (昭49)
- 監事 佐野 信子 (昭41)・原 俊明 (昭59)
- 事務局長 島田実恵子 (昭44)
- 庶務 熊川 稔 (昭49)・金子 朋裕 (平2)
- 江原 悠一 (平10)・湯本 千絵 (平12)



東京都支部の近況

東京都支部長 松本多加志

会員相互の旧交を温め、きずなを深めることが本会の中心的な活動ですが、教員採用が増えつつある時勢に合わせ、教員を目指す後輩学生の支援にも取り組んでいます。今年の成果として、来年度は、18名が東京都の教員として採用される見通しです。

本年度、東京都の教員となった会員の便りです。
《東京都の教員になって》

私は東京都の教員になって良かったと思います。

まず、本市では、初任者への現職研修がしっかりと行われていて、仕事をしながら自分自身が成長できるからです。初任者が悩んだり困ったりする内容を中心に研修が組まれています。初めは、電話での受け答えの仕方などについて教わりました。現在は、指導案の書き方や授業参観などが中心で、教員生活を送る上で必要なことを多々学び取っています。充実した研修の内容があるからこそ、仕事に打ち込み、児童に全力でかかわることが出来ます。

次に、本校では地域とのかかわりが大きいです。地域の

方々が児童の登下校の安全を守っています。そして、教員は土日を使い、地域のために様々な活動をしています。お互い協力し合い、児童とかかわれることに大きな魅力を感じています。

(町田市立鶴川第二小学校 田後洋平)

東京都の教員になってまず感じたのは、子どもたちが明るく素直で可愛いということです。

日々成長する子どもたちのその瞬間に立ち会えるのは、言葉では言い表せない程の感動があります。

私には、悩んだ時にすぐ相談できる環境があります。学年の先生方ももちろん、管理職や他の先生方も熱心に話を聞いてくれます。「学校全体で解決していこう」という団結があり、とても心強いです。研修で出会える初任者同士のつながりもとても深く支えになります。そして、採用試験に当たって、東京都支部の先輩の方々から論文添削や面接練習会など熱心な指導を受けることができましたが、今でも近況を報告しながら相談に乗っていただいています。

大変な部分はもちろんありますが、私は今、とても楽しく充実した日々を送っています。

(町田市立相原小学校 面川怜花)

支部総会を終えて

山梨県支部会長 倉田由和

山梨県支部では、平成21年8月2日に本学で開催された第20回総会に合わせ、一時間前に同一会場で、支部総会を行いました。(この形態は十数年来の恒例で、本会総会を盛り上げようとの意図によるものです。)

21年～22年の活動方針や予算及び役員などが確認されました。この席での議論を通して痛感したことは、3,300人という多数の会員を要する支部として、会員相互の絆を高め融和や親睦を深めるための活動は如何にあるべきかが大きな課題であり、そのための取り組みが執行部に科せられた宿題だと捉えたところです。

以下、活動の具体について述べます。

まず緊急な取り組みとして、今年の夏に行われる参議院選挙への対応です。この選挙には、本会の第七代会長で顧問の『興石 東』氏が再選を期して立候補します。興石東氏は都留文卒業後、公立小学校に永年勤務し、その後、政治の道に進みました。現在は民主党幹事長代行、参議院議員会長として大活躍していることはご案内の通りです。

本年度も開催「学生と語る会」

静岡県支部長 鶴見親義

静岡県支部恒例の行事として定着してきた「学生と語る会」を、本年度も次のような内容により開催した。

- 1、名称 学生と語る会
- 2、日時 平成21年6月14日 10時～15時
- 3、会場 磐田市一言区公会堂
(磐田市一言1178番の3)
- 4、内容 最近の情報交換及び教育採用試験対策を中心として
 - 講話(講師 現金指小学校長 西岡祥一氏)
 - ・静岡県(浜松市)教育の目指すもの
 - ・教師としての心構え
 - ・指導の基本的な考えと児童・生徒への接し方
 - 体験報告 富士市立吉原第二中学校教諭 伊藤菜摘子さん
 - 昼食を兼ねての情報交換
 - 面接に関しての話しと模擬面接

興石 東氏は常々「生まれ変わったらもう一度教師になり、子どもたちと泥まみれの生活をしたい。」と口癖のように言っています。氏は自らの政治信条の原点は「群れて遊ぶ子どもたちの姿であり、笑い声の漏れる家族団らんの世界にある。」と訴えています。殺伐とした政治の世界にあって、氏のこうした想いは、欠くことの出来ない貴重な視線だと言えます。再選に向け同窓会員の深いご理解と強い支援を要請していきたいと思えます。

次に会員相互の親睦や交流を図る取り組みであります。「3,300人という多数の会員」への対応としては、県内にある八つのブロックの活動をより活発にすることが先決だと考えています。

そのために、ブロック役員を交えた役員会を数多く開催し、ブロック間の活動について情報交換をしたり、役員同士の意志疎通を図ることが重要だと考えます。役員会や懇親会、ゴルフコンペやゲストを招聘しての学習会などを実施していきたいと考えています。

なお、本会の会長及び執行部を輩出している支部として、本会の事業には積極的に協力をしていきたいと考えています。

当日参加した9名の学生諸君には、よい刺激となり、今後への志望に資することができたのではないかと考えている。

なお、模擬面接で指導して下さったのは

松島温通氏(昭33卒) 清水 猶氏(昭42卒)

細田和宏氏(昭43卒) 西岡祥一氏(昭47卒)

の諸氏である。また、この会の開催にあたり、事務局として、大場孝純氏(昭44卒)、森山和保氏(昭45卒)の両氏の心配りにより、この会が継続・成功していることを記し、謝意を表したい。

県人会の総会については、例年8月に実施していたが、本年度は都合により、平成22年1月に、静岡市で実施の予定である。



城山の友とのふれあいをめざして

福井県支部長 村上則夫

2年間支部長をされました伊藤俊英先生の後を引き継ぎ、この度、支部長を仰せつかりました。どうぞよろしくお願ひします。

「一人でも多くの参加を」を目標に総会準備を進め、11月14日(土)に総会を開催しました。役員や会員の皆様の声かけのお陰で、昨年よりも多くの参加をいただきました。また、都合で参加をいただけなかった会員の方々の声をお知らせし、情報交換の資料としました。

総会では、親しく集える城山の友が増えるように総会開催地をなるべく全県的に広げる方向で取り組みをすることになり、会員の皆様のご協力に深く感謝しております。

本年度は、柿本治先生(昭47)を講師に迎え、「発すれば応える」と題してご講演いただきました。校長時代等の豊富な教職経験を振り返られての心温まるお話を聞くことができ、私たちに勇気を与えてくださいました。教職の基本であります“子どもたちのために、自分のために学び続ける”こと等に気持ちを新たにしました。心から感謝申

し上げます。

続いての親睦会でもお互いの地域の教育状況等を語り合うと共に、それぞれの懐かしい都留文科大学時代を分かち合うことができ、充実した時間を互いに持つことができました。

4月に37年ぶりに大学を訪れる機会があり、初めて都留文科大学駅前に立つことができた私は、暫くボーッと立っていたことを覚えています。私の在学時とは想像もつかない新しい町並みに目を見張ると同時に、古き良き時代に思いを重ねていました。帰りには、お世話になった下宿を見つけることができ、親しかった友との貴重な思いにふけていました。

今後も会員相互の親睦と学生への支援を継続すると共に、会員数の拡大を心がけ、総会の回を重ねる度に参加者が増え、相互のつながりが太くなっていくように願っています。

愛知県支部 総会準備に熱気あり

愛知県支部事務局長 神谷 彰彦

本年度の愛知県地域幹事会(8地域)は12月19日に、西三河エリア・安城で開催しました。会場は愛知県の誇る作家「新美南吉」が県立安城高等女学校に教諭として勤務していた当時にゆかりのある「料亭：川本」で総勢19名が一同に会しました。「当時、新美南吉から教えを受けた者が近親者で存命である!」という参加者もいて、会が冒頭から盛り上がりました。

今回は地域幹事の引き継ぎを兼ねて、若手も数多く参加していただきました。

平成22年10月に予定されている5年に一度の一大イベント「愛知県支部総会」に向けての取り組みの基本方針が提案され、大筋のところ承認されました。県内は8エリアに分けてありますが、それぞれのエリア内でも交通不便な地区も多くあるため、最新の通信ツール(Eメール)などを活用し、適切な作業分担計画を立てることが共通理解されました。

参加者の中には、近々に大学や谷村町近辺に出かけた者が数名いて、それぞれが持ち寄った「学内の様子」「キャンパス周辺の変貌ぶり」「消滅した昔の下宿屋」につい

ての最新情報に耳を傾けたり、合いの手を入れたり大変賑やかな一時でした。

平成21年度は支部長が定めにより退きますので事務局長が支部長を務め、名古屋の地域幹事が事務局長を務めます。その他多少の入替えがありますが、概ね今年度の幹事を中心に22年度も活動していく予定です。支部組織・活動計画は以下の通りです。

◎平成22年度の支部組織

支部長	神谷彰彦 (55教)	10月：県支部総会
事務局長	平手孝幸 (55教)	12月：地域幹事会
地域幹事	名古屋 竹内義信 (58教)	随時：地域・ブロック別懇親会

尾張	右高秀美
海部	平野 豊
知多	山本 肇
西三河	平岩 篤
豊田三好	岡田正弘
新城設楽	林 亨
東三河	仲田泰夫



国生みの島で美を堪能

兵庫県支部長 井上 弘和

兵庫県支部総会は県下7地区持ち回り制で実施している。平成21年度は古事記・日本書紀でも知られる国生みの島「淡路島」で、6月13日開催した。高知県の会長・副会長様も参加され、総勢33名が集う会となった。

総会は滞りなく進み、第2部は2つのギャラリー見学である。いずれもご夫婦共都留文大卒業生であり、退職後も地域で活躍され、地域の文化発展のためギャラリーを開いておられる。「ギャラリー浮橋」は国生み発祥の地、おのころ神社の近くにあり、天の浮き橋から命名されたという。1階は、民芸派作家として有名な濱田庄司の門下生として活躍されている女流陶芸家藤井佐知の作品を展示している「仲野文コレクション」である。文様は、現職時代からご自身も藤井佐知様に師事し、作陶されている。2階はご主人仲野壽志氏の版画作品が所狭しと展示されている。「ギャラリーn-gata」は山形尚之が版画を収集し、展示と販売もされている。世界的に有名な池田満寿夫の作品も楽しむことが出来た。隣接するお庭は和子様の手に

よるもので、ミニコンサートなども開かれている素敵なお庭である。二組の同窓生のギャラリーは、まだまだじっくりと楽しめる場所である。第2の人生の素敵な生き方に感動することしきりの見学であった。

第3部は懇親会。それぞれの近況報告や、懐かしい学生時代の話に盛り上がった。昭和33年卒の方から、平成3年卒の方まで時代を越えて都留文大に学んだ証を確かめ合う一時であった。(文責 中嶋)



確かな 足跡を 求めて

広島県支部長 小谷 桂司

諸先輩方のご苦勞により「結成された同窓会の広島県支部」を受け、2年目。同じ広島県内に在住する同窓生が一堂に会してお会いする機会をと思いつつも現実、なかなか「近くて遠い」関係、「会合期日」の設定など。また、同窓生の年齢やそれぞれの置かれている背景を受けての「ニーズに応じた会合内容」の企画など、課題は山積です。

ここ近年では東広島市、呉市、尾道市、庄原市、三次市。そして、今年度は江田島市と役員会及び総会場所を広島県内東西南北を意識しながら会合を



重ねて来ています。更なる工夫をと考えています。

また、一時期より「団塊世代の引退により教員採用の枠が広がっている現状」での同窓生としての卒業生への就職活動への支援体制。小学校・中学校にて中心的な役割を果たしている現役の同窓生教員への協力・応援体制づくりなど、支部として「支部便り・ミニ会合づくり」の発行や情報発信・収集、企画を基に「確かな足跡」をと願っています。

◎平成22年度の役員

顧問	金久 睦彦	理事	本宮 建弘
顧問	松田 昌紀	理事	土橋 義信
会長	小谷 桂司	理事	三永 政幸
副会長	中西 正一	理事	田中 春樹
副会長	表 善彦	理事	目崎 仁志
理事	佐島千賀子	理事	島本 智子
理事	田丸 正美	理事	杉山 幸子
理事	宮本 仁	監査	三井 昌宏
理事	山城 義明	監査	白石 隆
理事	猪原 憲三	事務局	二宮 正

第4回鳥取県支部総会を開催して

鳥取県支部長 飛村 淳

秀峰大山の雄姿を背に受けて、平成21年11月23日(月)、「ホテルセントパレス倉吉」において、第4回鳥取県支部総会を開催、16名の会員が参加いたしました。

鳥取県支部は、藤原成雄先生(昭40年卒)の熱意とご尽力により平成14年2月に誕生しました。以後曲折もありましたが、7年目を迎えた今年度4回目の総会を開催することができました。

総会では、先ず西尾迪子会長から「都留文科大学報」「都留文科大学2010大学案内」の資料をもとに大学の現状についてお話していただきました。協議では、今後の支部活動のあり方について、①会が更に充実発展するために、互いに連絡をとり合い声を掛け合って活動の輪を広げ、相互の親睦を深めること。②児童生徒の減少や学校の統廃合が進み、教員採用も極めて厳しい状況の中、教員をめざす後輩のために可能な支援をすること。が話し合われました。

懇親会に移り、恒例の「なつかし私の大学生活」では、

学舎や講義のこと、都留の町並みや下宿のこと、アルバイトやクラブ活動のこと等、在学年度は違ってもなつかしい話題は皆共通で領いたり笑ったりと、自分の青春時代、都留での生活を想起しながら、しばし都留文大生にもどって楽しいひと時を過ごすことができました。

今後更に多くの参加者を得て、支部総会が一層盛会となるよう願っています。

◎平成22・23年度支部役員

会長 飛村 淳 (昭43)
副会長 藤田 修 (昭50)
副会長 金田吉次郎 (昭46)
監事 古都 英幸 (昭51)
監事 山本 英明 (昭50)
事務局長 西田 智貴 (昭61)
庶務 真島 祐二 (平5)
庶務 平井さゆり (平2)



「だんだん」(ありがとう)の気持ちを込めて

鳥根県支部地元幹事 榎野博巳

NHKの朝ドラ「だんだん」で有名になった鳥根県支部では、5月に出雲の地元幹事会を開催し、8月に鳥根支部の同窓会・親睦会を出雲で行うよう地元幹事が中心となって準備を進めてまいりました。そして、8月22日(土)に出雲ウエルシティ鳥根(旧厚生年金会館)で同窓会・親睦会を開催しました。参加者は12名と少なかったですが、いろいろ懐かしい思い出ばなしに浸りながら、楽しいひと時を過ごすことができました。会話の中に地名の「谷村町」や下宿先の「〇〇荘」などの名前が出るたびに、昔にタイムスリップをしたようで、大学時代が思い出され、時間がたつのも忘れ懇親を深めることができました。

今までは、役員会や総会を松江で行ってきましたが、今回初めて出雲に会場を移し、地元幹事団を結成して準備をしてみました。それは、出席者の便宜を図り、参加者の拡大を願っての試みでした。会場を移動することによって、近くの会員は参加がしやすいだろうし、地元自慢で盛り上がることも期待できると思ったからです。鳥根県は

ご存知のように、東西に長く、また東側と西側では方言が違います。あえて、東側の方言「だんだん」(ありがとう)をタイトルにしたのは、今回はそれに対抗して、石見でも同窓会・親睦会を開催し、西側の方言自慢が聞けるといいのと思ったからです。

何はともかく、都留文科大学同窓会都道府県別の会員数が、鳥根県は220人もいるわけです。同窓会・親睦会を活性化することによって、会員同士の横のつながりを強めたり、深めたりすることができると思います。せっかく大学を同じくした「ご縁」です。ぜひ、一人でも多くの会員が同窓会・親睦会に参加し、鳥根県支部の同窓会が発展しますよう願っています。



支部結成から7年目の岡山

岡山県支部長 原田直樹

平成15年8月に岡山県支部が誕生してから、早いもので7年目を迎えました。

当初は、8月第3日曜日に支部総会を開催していましたが、平成17年度(第3回)支部総会からは2月11日(建国記念の日)に岡山市内で開催するようになり、平成21年度もその予定で、ただいま準備を進めているところです。

さて、平成21年度の支部総会の様子を写真でお知らせしたいのですが、原稿締め切り後の開催なので、次号でのご報告となります。

そういうわけで、平成20年度の支部総会について報告したいと思います。会場は例年でしたら、岡山市内の割烹「山佐本陣」なのですが、他の会場で気分転換もいいのではということになり、岡山市内の「Ryoutei(りょうてい)」に変更しました。昨年度より増で、17名が集いました。もう少し会員の参加を増やしたいと思います。

それでも、7回目ともなると、気心知れた先輩、後輩という感じがより強くなり、昔を懐かしみ、また今を語っ

て、あっという間のタイムオーバーとなりました。

厳しい社会情勢や教育環境をいかに切り抜けてゆくか、情報モラルの混乱、青少年の非行問題などにどのように対応していくか、元文大生は真剣に語り合ったのでした。

昨年度報告しました支部旗行方不明についてですが、出てまいりました。これからは支部長が支部旗を管理することになります。2月11日の第7回支部総会の写真は支部旗を背景にして、必ず来年度の会報で紹介いたします。

◎岡山県支部役員

支部長 原田 直樹
副支部長 菱川 徹
理事 岩城 孝志、坂上 信二、中野 元雄、
土師 康生
事務局 岩城 孝志、岩崎 美幸、岡本 智江

支部結成より7年目の高知

高知県支部長 清岡 典代

支部発足以来、毎年開催される総会・懇親会が、今年は8月1日(土)に県西部の四万十市で7名の参加で行われました。東西に長い本県は、県庁所在地の高知市まで車で3時間かかる僻地も多く、会員が集まりにくい現状もありますが、少人数でも和やかな雰囲気での楽しい時間となりました。

総会では、会長挨拶、出席者近況報告(欠席者の方々からも返信にて近況を知らせて頂き有難うございました。)、20年度事業報告及び決算監査報告、承認がなされ、21年度も活動を活発に継続させようと事業計画、予算案を話し合いました。

今年は、兵庫県支部との交流があり、2名の方が遠方の四万十市まで出向いて下さって活動紹介をして下さる等、会を盛り上げて頂きました。

懇親会では、高知名物の鰹のたたきや四万十川料理に舌鼓をうちながら、自分達が若かりし頃の都留大の学風、学生気質や下宿生活、名物教授の思い出等昔話に花が咲

き、懐かしいひとときを過ごしました。おんぼろの山の上のクラブハウスや古い学食や生協店舗。トイレも洗面兼用の台所も共用で、銭湯に通い、土間や木枠の窓から



すきま風が吹き込むような4畳半一間に友人と集った、貧しくも懐かしい青春の日々が蘇りました。また、現代の教育現場や教育実践に関して、含蓄のあるご意見なども聞くことができました。本県からは遠く離れた都留市や都留文科大学が、一人ひとりの心の中にしっかりと残って現在の自分の糧になっていると感じます。

都留大と高知県支部のますますの発展をこれからも願っています。事務局や役員の皆様、いつもありがとうございます。

(文責 吉本砂紀 57年初教卒)

長崎県支部の近況

長崎県支部長 西田 正人

全国の同窓生の皆様には、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

光陰矢のごとしと申しますが、文大卒業後43年がたちましたが、ついこの間のように思えます。



さて、長崎県支部の近況についてですが、8月末長崎市において役員会を開催いたしました。役員全員の出席はできませんでしたが、その席では、理事会に参加した報告と、今年度の役員等について話し合いを持ちました。

事務局長の明石君には、支部設立当初からお骨折りいただきましたことに会員一同感謝しております。

また、支部組織のあり方についても話し合いましたが、ブロック制や開催場所の輪番制については、教職員の異動等により、会員の住所等の把握が難しいことなどから見合わせることになりました。

今年度の新役員は次のとおりです。

◎長崎県支部役員

- 顧問・柴田 高明
- 支部長・西田 正人
- 副支部長・江口 匡彰・藤崎大吉郎
・三宅 道夫・明石 仁
- 事務局長・渡邊 林
- 監事・浦 紘一郎・平山 繁壽
- 理事・浦田 勝一・牟田 茂博

県支部活動と第2回在学生県人会

熊本県 阿蘇郡理事 山邊 健二

県支部活動

本支部は隔年に総会・懇親会を開催しています。よって、昨年のごこととなりますが、総会では倉岡会長から平成20年度同総会理事会の報告と第1回在学生県人会(支部主催・会長の発案で役員会にて決定事項)の状況報告がありました。都留文科大学同窓会の真摯な取り組みを改めて感じ取り、また、在学生県人会必要性を再確認しました。私は昭和45年度の特編編入生ですが当時の熊本県人会(学生主催)に出席しました。その時、本科生4年の高倉利孝氏と1回だけの出会いがありました。熊本の教員となり、20年後に何かの研修会でバッタリ会い、それから高倉先生は天草の地、私は阿蘇の地と距離は離れていましたが情報交換の交流が始まりました。これこそ県人会の賜であったと強く思っていたところでした。

懇親会では倉岡会長から、学校・学校周辺・都留市内のスライド写真(数10枚)の映写と丁寧な解説があり、素晴らしい変容に参加者一同感嘆の声を挙げていました。

その後の盛り上がりは言うまでもありませんでした。

第2回在学生・熊本県人会開催

会長のお骨折りで第2回目を開くことができました。11名の在学生ですが個人情報保護のためか在学生との連絡が非常に困難な状況です。1名は連絡が取れないまま5名の参加でした。4年生のK君は部活動のOBを交えての新入生歓迎会主催と言うことで、30分ほどで退席しました。3年生のH君とSさんは教育実習を目の前にしており、意欲的な様子が窺え、大変頼もしく思いました。1年生のYさんは一人で心細い思いをしていたところ、心強い先輩に出会えたことに感激を覚えていました。「お礼のメール」

(山邊先生や倉岡先生のおかげで、熊本県の仲間と出会うことができました。将来は熊本で教師をしたいと、お互いに同じ夢・悩みを持ち、お互いを刺激し会える仲間と出会えて充実しています!ありがとうございます!)

鹿児島県支部と私

鹿児島県支部 伊地知順一

鹿児島県支部は秋の県小・中学校研修大会に合わせ、大会の前夜に鹿児島中央駅近くの「萩乃」という割烹で同窓会「桂川会」が開催されるのが恒例であります。

過日、支部長さんから、この会に比較的多く足を運んでいることや、20年度退職者の一人であるということと理由にわたくしに同窓会報の原稿依頼がありましたので、迷い、お引受けした次第です。

さて、職を退いた今、現職時代を振り返ってみると、わずか数カ月前の生活のことが夢のように思われてなりません。日常的な仕事やその時々を生ずる課題に追われて余裕のない生活を送ってきたような気がします。課題に向けて努力したあとの小さな達成感や職員間に時折生まれる連帯感らしきものが仕事をする上での救いであったような気がします。これからも教育界は時代の進展とともに種々の関係が複雑になり、新たな課題が生まれ、それに対応したシステムを構築し、それを運用していくことが続くと思います。後に続く方々に心からエールを送りたいと思います。

今、あらためて大学時代に思いを巡らしてみると、大学を卒業したのは遙かに遠い昔のことではありますが、大学の校舎や校舎を取り巻く緑豊かな自然や都留ののどかな町並みは臉のうらに色褪せることなくありありと思ひ浮かべることができます。幸いにわたくしは今も大月と大阪に懇意にしている先輩がおります。時たま顔を合わせる機会もあり、その時は気持ちも若いころに帰って話が弾みます。青春時代を共有した人間関係というものの有難さを感じるひとときです。

そして「桂川会」は青春時代を共有した人間関係をもっと広げたかたちの会合で、懇親の場であるとともに情報交換の場、研修の場でもありました。20年度現在、鹿児島県は卒業生が400名にも達しようとしているようであり、今、あらためて同窓会の意義や在り方について知恵を出し合うことが求められているように思います。そして良い出会いを続けるための会員の理解と協力も不可欠なようです。

最後、「桂川会」の今後に期待し、筆を置きます。

市、町の指導主事、学校教育課長、校長として、鹿児島県の教育に多大な貢献をされました。
鹿児島県支部長 溝口通大

都留文科大学同窓会に参加して

沖縄県支部 副会長 比嘉正夫

平成21年8月2日(日)都留文科大学の第20回同窓会に参加させていただきました。都留を訪れるのは約10年ぶり。行く前からうれしきでいっぱいでした。

前日の午後2時半頃都留に着いたので、ゆっくり都留の街を散策しました。私が大学まで通っていた十日市場から大学までの裏道、たんぼ道を歩いたときは大雨で、傘をさしてもびしょ濡れでした。それでも、学生時代に毎日通い慣れたあぜ道を歩き、心の中は学生時代の思い出と、懐かしきでいっぱいでした。

夜は、大学のサークルの後輩と、25年ぶり(私の新婚旅行で会って以来)に会い、都留で酒を酌み交わしました。道志村に今も住んでいて、小学校の教員をしています。学生時代は、希望と悩みに満ちた若者らしく、人生論を大いに語り合いました。久しぶりに会ってみると、お互いに老けていて、それがまた懐かしい気持ちにもさせてくれました。

私は、東京で2年間の浪人生活の末、昭和48年(沖縄が祖国復帰を果たした翌年)で、私が上京したころはまだ、パスポートを持っていました)、英文学科に入学しました。大学時代には、2年留年し、結局6年間を都留で生活しました。その後、教員採用試験に7回目で合格。教諭、教頭職を経て、昨年から校長職をさせていただいていますが、現在は、いろいろと苦労しているといった状況です。

同窓会総会は8月2日に行われ、学長の今谷先生や副学長の話では、平成21年度より大学が法人化されたこと。順調に発展してきており、同窓会も他の大学にない特徴のあるものになっ

ていることなどのお話がありました。いくつかの議事後、講演があり、その後、懇親会がありました。たくさんの料理やビール、日本酒でもてなしてもらった中、卓球部の後輩とも、卒業以来初めて会い、たくさんの思い出を語りました。

アトラクションでは、管弦楽団がすばらしい演奏をしてくれましたが、その中に、沖縄出身の女学生がいて、話をして励ましてあげました。沖縄市の山内中学校出身だということで、沖縄出身の他の学生達も頑張っているとのことでした。

今回は、都留で2泊して、ゆっくり都留の空気を満喫しました。天気が悪く、富士山を見ることができなくて、少し残念ではありましたが、都留といえばやっぱりこんなところかなあと感じたこと、確認したことは、緑の山、樹木、水量の多い川の流れる水音、思い出のアパートです。ただ、私の住んでいたアパートは、建物自体は残っているものの、人が住んでいる気配がなく、廃屋になっていて、寂しさを感じました。

大月から2両編成の電車が進み、都留市駅あたりからじーんと来るものがあります。大学周辺の建物がどんどん増えても、道や都留、谷村の町並みは変わらず、まだまだ残っていくのだろうと安心しました。落ち着いた空気、静かな雰囲気、ゆったりとした時間を感じます。

管弦楽団の学生や、町で会う学生達も真面目そうであるし、やはり、青春だからまぶしい。これからも大学が発展し、学生達が有意義な人生を送れるように希望します。久しぶりに都留に行けてとてもよかった。ありがとう。



「25年ぶりに会った後輩と」

氏名・住所等変更届はホームページ・E-mail・郵便はがき・FAXで、お願いします

結婚・転居等により住所や氏名等を変更された方は、次の必須項目及び変更内容を、いずれかの方法によりお知らせください。郵便はがきでの氏名・住所等変更届の場合、はがきは自己負担でお願いします。

1 ホームページ

(1)本学ホームページより[卒業生の方へ]→[同窓会]→[同窓会氏名・住所等変更届け]にて行ってください。なお、詳しい変更方法については、ホームページ上に掲載してありますので、ご参照ください。

都留文科大学ホームページ URL : <http://www.tsuru.ac.jp>

(2)ホームページ上にて氏名・住所等変更届けを行う際には、次のユーザーID並びにパスワードが必要となります。

ユーザーID : tsurubun-u パスワード : t10016 (どち

らも半角英数) ※同窓会会員以外による不正使用がないよう、ユーザーID・パスワードの管理にはくれぐれもご注意ください。

2 E-mailにて送信

E-mail/dousokai@tsuru.ac.jp

3 FAX・郵送

〒402-8555 山梨県都留市田原3-8-1 都留文科大学同窓会 宛
TEL/0554-43-4341 内線206 FAX/0554-43-4347

◎必須項目	○変更内容
氏名(フリガナ)/旧姓 卒業年・学科	現住所/電話番号 勤務先名 勤務先住所/電話番号 勤務先の役職

体育会

平成21年度体育会
会長 酒井新司

春陽の候、都留文科大学同窓会会員の諸先輩方におかれましては、ますますのご健勝のこととお喜び申し上げます。

本年度は、昨年の「絆」、一昨年の「縁」、また長い歴史を土台にしたスローガン「絆」を目標に掲げ、体育会をより良いものになろうと日々頑張っています。

長い歴史を持つ体育会ではありますが、今年は例年以上の成績を残した年になりました。陸上部・準

硬式野球部・空手道部を始めとする多くの部活が全国で成績を残し、さらに多くの部が成績を残すことができました。これも、諸先輩方を始めとする多くの方々の協力があったからだと思います。また、今年で36回目となる高崎経済大学との交流戦「鶴鷹祭」に於きましては、18勝6敗という歴史的な勝利で終えることができました。これも各部の日々の練習の賜物だと思っています。これからも厳しい鍛錬を積み諸先輩方の耳に届くくらい活躍・躍動していきたいと思ひます。体育会にご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願いします。



鶴鷹祭にて（高崎経済大学との交流戦）

文化会

平成21年度文化会
会長 嶋田光成

早春の候、都留文科大学同窓会会員の諸先輩方におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

今年は、吹奏楽部をはじめ、様々な部活が優秀な成績を取っています。これもひとえに陰で支えてくださっている諸先輩方のお力添えの賜と、お礼申し上げます。

また、吹奏楽部の他にもマンドリンクラブや合唱

団は定期演奏会などを通して、都留市民との交流も積極的に図っています。

文化会本部は、平成22年度に向けて引き継ぎが完了しました。文化会所属の各団体においても新体制を整えて、その上で先輩方が築いてきた伝統を引き継ぎ、団体のさらなる発展を目指すことを新たな目標としています。

これからも、都留文科大学同窓会会員の諸先輩方に今後ともご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



中央自動車道談合坂 S.A にて演奏（吹奏楽部）



同窓会総会後の懇親会にて演奏（管弦楽団）

第62回 全日本合唱コンクール全国大会金賞受賞

都留文科大学合唱団

「心を込めた演奏を」

今年、私たち合唱団は自分たちでも信じられない快挙を成し遂げました。平成21年11月21日、札幌コンサートホール kitara で行われた第62回全日本合唱コンクール全国大会にて、金賞第一位、来年の全国大会へのシード権獲得、カワイ奨励賞受賞という素晴らしい成績を残しました。受賞したとき、嬉しさと喜びと感動が涙となって溢れ出てきました。

私たちは週3～4回、2～3時間の練習を行っています。学生が主体となって部活を進めますが、常任指揮者である初等教育学科音楽専攻専任の清水雅彦先生にご指導をいただいて練習に励んでいます。主なイベントとしては県大会、関東大会、春・夏の合宿、訪問演奏、定期演奏会などです。昨年10年ぶりに全国大会へ出場することができ、全国大会が大きなイベントとなりつつあります。また12月に行う定期演奏会には、たくさんの方が足を運んでくださいました。1年間の集大成として今まで歌ってきた曲を歌いますが、どれも思い出深い曲ばかりでした。

合唱の魅力は何と言っても仲間と心をついに声を合わせて歌うことです。自分の声・体が大切な楽器となります。どんなときも一緒にいる仲間と濃い時間を過ごすからこそ、深い音楽を創ることができず。音が上がっていくときは軽やかに喜びを持って、音が下がっていくときは深みのある、楽しい曲調のときは表情も楽しく、悲しい曲調のときは自分も悲しくなど、歌いこむとその曲の素晴らしい世界へどんどん引き込まれていきます。みんなで一緒に考えて一緒に創るからこそ、さらによりよいものができていきます。

今年1年間は様々なことがありました。“全国大会金賞

一位”という結果だけに目がいてしまいますが、その裏には団員の苦労がありました。思うように歌えないこと、分かっているのにできなくてもどかしいこと、目指しているものが遠すぎてどうしていいのか路頭に迷ったこと...それでも前へ進み、乗り越えていくことで次へ繋がり、努力した先には素晴らしいものが得られるということをも身を持って学びました。

大学生の部活というものは人によって捉え方が違います。中には「将来には役に立たない。」と考える人もいることでしょう。しかし、私はこの自由な時間がある大学生活の中で部活に賭けるからこそ意味があるものだと考えます。忘れていたもの、当たり前だと思っていたものを気付かせてくれます。側にいる仲間がどれほど自分の支えになるのかということ、辛いことでも乗り越えれば必ず何かが見えてくること、周りへの感謝を忘れないこと...大切なものはここにあるのだなと実感します。学生で経験するものに、無駄なものなんて何一つありません。必ず将来へと続いています。そして、仲間と一緒に打ち込めるものがあることは、本当に幸せなことです。

“日本一”という信じられない記録が残りましたが、それだけではなく心を込めた演奏を届け、みなさんにとって記憶に残るような歌をこれからも歌い続けたいと思います。

団長 武井由佳



平成20年度都留文科大学同窓会会計収支決算書

(単位：円)

◆収入の部

項 目	当初予算額	補正予算額	予算現額	収入済額	備 考
入 会 金	3,990,000	0	3,990,000	3,990,000	798人×5,000円=3,990,000円
終 身 会 費	7,980,000	0	7,980,000	7,980,000	798人×10,000円=7,980,000円
繰 越 金	1,304,552	0	1,304,552	1,304,552	平成19年度繰越金
雑 入	25,448	125,919	151,367	170,971	福島支部助成金(平成19年度)返還金・預金利息・同窓会名簿販売(3冊)・50周年記念誌販売(3冊)
収 入 合 計	13,300,000	125,919	13,425,919	13,445,523	

◆支出の部

項 目	当初予算額	補正予算額	予算現額	支出済額	備 考
事 務 費	7,145,000	0	7,145,000	6,038,939	
会 報 発 行 費	2,700,000	0	2,700,000	2,364,474	同窓会報第27号(平成20年度発行)
支 部 助 成 金	3,230,000	0	3,230,000	3,150,000	山梨 東京 神奈川 愛知 静岡 600,000円(@120,000円×5支部) 北海道 兵庫 千葉 福島 埼玉 宮城 660,000円(@110,000円×6支部) 富山 石川 福井 大阪 広島 岩手 600,000円(@100,000円×6支部) 山形 茨城 島根 岡山 愛媛 900,000円(@90,000円×10支部) 徳島 熊本 鹿児島 長崎 三重 320,000円(@80,000円×4支部) 鳥取 宮崎 沖縄 奈良 70,000円(@70,000円×1支部) 高知
支部設立準備金	450,000	0	450,000	0	
新 入 学 祝 費	500,000	0	500,000	444,465	
支部旗作成費	165,000	0	165,000	0	
教員採用試験学習会費	100,000	0	100,000	80,000	宮城 千葉 静岡 石川 愛知 東京 大阪(2回) 80,000円(@10,000円×8支部)
会 議 費	1,500,000	0	1,500,000	1,322,680	
総 会 費	0	0	0	0	
理 事 会 費 等	1,500,000	0	1,500,000	1,322,680	
同 窓 会 本 部 費	1,820,000	0	1,820,000	1,395,782	
事 務 費	100,000	0	100,000	18,452	
運 営 費	1,500,000	0	1,500,000	1,217,330	
慶 弔 費	120,000	0	120,000	70,000	
渉 外 費	0	0	0	0	
本部役員活動費	100,000	0	100,000	90,000	平成20年度役員報酬
積 立 金	2,600,000	0	2,600,000	2,600,000	財政調整基金 600,000円、大学創立記念事業基金 2,000,000円
予 備 費	235,000	0	235,000	0	
計	13,300,000	0	13,300,000	11,357,401	

(収入済額) (支出済額) (収入・支出差引残高)
¥13,445,523 - ¥11,357,401 = ¥2,088,122

◎基金の増減

◆平成19年度末積立現在高	25,599,085円
◆平成20年度中積立金(財政調整基金、大学創立記念事業基金)	2,600,000円
計	28,199,085円

基金内訳

財政調整基金	7,802,425円
大学創立記念事業基金	19,296,660円
名簿発行準備金	1,100,000円
計	28,199,085円

都留に集いて早50年

都留の恩返しのか 会長 大石 徹

今年、台風18号の中心が福島県会津若松市に停滞。NHK全国台風情報がながれた。

瞬時に全国の友人・知人から、携帯への着信音が鳴り響いた。無事か、家はあるか、と。

はじめて台風を体験したのは、伊勢湾台風であった。昭和34年9月26日の夜、雨が道路と水平に降る様に立ちすくんでしまった。十日市場行きの電車は完全ストップ。あてどもなく歩くには危険極まりない状況。咄嗟に「女人館」の玄関を叩く。普段は歓迎されないのにその時は大歓迎。窓のガラスが今にも割れそう。台風が去る迄の数時間を恐怖に打ち勝とうと大声で話し続けた思い出が、ぼんやりと且つ鮮明に脳裏に甦える。

その年の4月10日。日本中が皇太子と正田美智子様との結婚記念祝賀パレードで沸きかえっていた。その日、中央線に乗り大月から谷村駅へ。本当に谷に村が開かれたほどの小さな駅だった。学校は田舎の小学校程度であった。下宿を教えて戴き十日市場へ向う。

「聴講生」としての「小学校二級普通免許」取得の悪戦苦闘が始まった。50余名の目的を同じくした仲間は、生涯で最も真剣に学んだであろう。就職難の時代、「小免」を取得さえすれば、晴れて郷里の県の先生になれるのだから。わたしも真面目だった。

ピアノをはじめて触った。中には枕を抱えて空き時間を待つ強者もいた。スケッチブックに絵具で写生をしたのも初めてであった。たかだか6ヵ月の短い集いであった。

修了式のはなむけの言葉を小田和金貞先生より【覆水盆に帰らず。後悔をしない教師生活を期待する】と戴いた。私は答辞で《ああすれば良かった。こうすれば良かった。この言葉は生涯使いません。》と原稿に無い言葉で締め括った。その日より、答辞のこの言葉は常に肉体のどこかに存在している自分を誇らしく思っている。実際、教師時代も、教育長時代も、その後の生活も支離滅裂ではあるが...

平成12年5月。還暦を迎え定年退職をした白髪の初老の集団。熊本県の福島誠之君等の呼び掛けで谷村駅に降り立った。昔と変わらない駅舎。白壁を残している家並。青春の6ヵ月間、恋心を抱きつつ勉学に励んだ者もいた。終生変わらないもの、それは「都留文科大学」への感謝の気持ちである。もし、聴講生としてここに集わなければ、『せんせい』と呼ばれることの無い別の人生を送っていたら...

老春の集い。都留市・福島県岳温泉・磐梯熱海温泉・河口湖・会津若松市・横浜市・熊本県阿蘇・新潟県佐渡・山形県蔵王・福島県二本松・京都・そして今年は東京。

いつの集いも福島君の楽器伴奏で【旅愁】【早春賦】【故郷】等々を合唱し、最後は教育実習の宝小学校と分校で歌った【武田節】で親睦会の夜は更けるのである。



金閣寺にて

事務局だより

「屋外時計贈呈式」

同窓会事務局 飯野 美華

平成21年9月15日、本学の公立大学法人設立を記念して、同窓会より寄贈された屋外時計の贈呈式典が行われました。式典には、同窓会から小林孝次同窓会長、日向哲男事務局長、大学からは、西室陽一理事長、今谷明学長ほか多数出席されました。

式典の挨拶の中で、小林同窓会長は、「大学と同窓会がこれまで以上に一体となり、共に本学の発展に努めていきたい。」と述べられました。また、西室理事長からは、「同窓会群馬県支部の新設立を機に、今後、更なる同窓会の発展を期待したい。」とのお言葉もいただきました。

この日の式典で、大学関係者と同窓会役員が同席する姿は、しなやかで強い信頼関係を、永く築いていくように私には感じられました。

時計の高さは、約5メートルのステンレス製で、ソーラー電池パネルが取り付けられた太陽電池式電波時計です。

7月中旬に着工し、8月末に完成しました。

その時計は、大学へと続く坂道を上り、大学入口から広がる広場の階段を上ってすぐ、1号館手前にあります。

携帯電話を持つことが日常となった現代であっても、シンプルでどこか懐かしい形の屋外時計を、学内を歩き交う学生達がふと見上げることもあるでしょう。

この度、同窓会より寄贈された「屋外時計」は、本学卒業生ひとりひとりの、母校への想いがひとつの形となり、これからも大学、そして在学生の大学生活を温かく見守り続け、静かに時を刻んでいくことと思います。



小林同窓会長



西室理事長

